

# 授 業 計 画

No.1

授業科目	ビジネス講座		担当教員	田中 範明	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	1

授業概要	<p>このビジネス講座では、ビジネスの基本的な知識、社会人としてのマナーを学びます。人材教育の課題である問題力発見、提案力と発言力の醸成まで仕事に必要なとされる基本的な項目も学びます。また8つの意識(顧客、品質、納期、時間、目標、協調、改善、コスト)を中心にチームで働くマインドを身に付けます。結果としてビジネス能力検定ジョブパス3級の合格を目指します。</p>						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	50 %	課題	30 %	他	20 %
教科書	ビジネス能力検定ジョブパス3級 公式テキスト		副教材および 参考文献		プリント、過去問題、用語集他		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ビジネスコミュニケーションの基本①	授業の目的、受験申込。キャリアと仕事へのアプローチ
第2回	ビジネスコミュニケーションの基本①	仕事の基本となる8つのアプローチ
第3回	ビジネスコミュニケーションの基本①	コミュニケーションのビジネスマナーの基本
第4回	ビジネスコミュニケーションの基本①	指示の受け方と報告話し方聞き方のポイント
第5回	ビジネスコミュニケーションの基本①	来客対応と訪問マナー
第6回	仕事の実践とビジネスツール①	仕事への取組み方
第7回	仕事の実践とビジネスツール②	ビジネス文書の基本/電話対応
第8回	仕事の実践とビジネスツール	統計とデータの読み方/メディアの活用/経済の基本
第9回	B検定模擬試験①	ビジネス能力検定ジョブパス模擬試験と自己採点他
第10回	B検定模擬試験②	ビジネス能力検定ジョブパス模擬試験と自己採点他
第11回	B検定試験解説	試験結果の解答ほか
第12回	就職活動の心構え①	映像視聴1巻『資格技能を将来にいかす』他
第13回	就職活動の心構え②	映像視聴3巻『履歴書とエントリーシート』他
第14回	就職活動の心構え③	自己PR, 自己分析他
第15回	年金とは	年金制度について説明(外部招聘)
第16回	期末試験	期末試験の実施



# 授 業 計 画

No.1

授業科目	スポーツ実習		担当教員	湯浅誠	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	1コマ/週	授業形態	演習	単位数	1

授業概要	この科目は、スポーツに親しむことによって、体を動かすことで爽快感・達成感・他者との連帯感等、精神的な充足も図り、更には、体力の向上・ストレスの発散・生活習慣病の予防など、心身両面にわたる健康の保持増進を目的とする。 また、様々なスポーツを経験することで新しい気付きや、楽しさを発見する。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	80 %	他	20 %
教科書	なし			副教材および参考文献	なし		

	講 義 計 画		実 施 細 目	
	A種目	B種目	A種目	B種目
第1回	ガイダンス		全体の流れと今後のスケジュール確認	
第2回	バレーボール①	バスケットボール①	トス練習 → 紅白戦	パス練習 → 紅白戦
第3回	バレーボール②	バスケットボール②	トスリレー → 紅白戦	パスリレー → 紅白戦
第4回	バレーボール③	バスケットボール③	レシーブ練習 → 紅白戦	ドリブル練習 → 紅白戦
第5回	バレーボール④	バスケットボール④	レシーブリレー → 紅白戦	ドリブルリレー → 紅白戦
第6回	バレーボール⑤	バスケットボール⑤	サーブ練習 → 紅白戦	シュート練習 → 紅白戦
第7回	バレーボール⑥	バスケットボール⑥	サーブ陣取り合戦 → 紅白戦	シュート対決 → 紅白戦
第8回	バレーボール⑦	バスケットボール⑦	紅白戦	紅白戦
第9回	バレーボール⑧	バスケットボール⑧	紅白戦	紅白戦
第10回	バレーボール⑨	バスケットボール⑨	紅白戦	紅白戦
第11回	バレーボール⑩	フットサル①	紅白戦	パス・ドリブル練習 → 紅白戦
第12回	バレーボール⑪	フットサル②	紅白戦	シュート練習 → 紅白戦
第13回	バレーボール⑫	フットサル③	紅白戦	パス・ドリブル練習 → 紅白戦
第14回	バレーボール⑬	フットサル④	紅白戦	シュート練習 → 紅白戦
第15回	バレーボール⑭	フットサル⑤	紅白戦	紅白戦
第16回	バレーボール⑮	フットサル⑥	紅白戦	紅白戦



# 授 業 計 画

授業科目	国際コミュニケーション		担当教員	竹井 透	クラス	1年全クラス(選択)	
期別	前期	履修コマ数	※ コマ/週	授業形態	演習	単位数	2

※7月～9月

授業概要	この科目の中心となる「マレーシア・ミニ留学」をグローバル人材育成の一環として実施する。 過去5年間にわたる本校マレーシアミニ留学を通じて蓄積した経験を生かし、1年生を対象に、前期の選択科目として位置づける。マレーシア留学の前後に事前学習・事後学習を実施する。 ただし受講生については、費用の一部にマレーシア奨学金制度を利用するため、選抜試験を実施し、合格者のみを対象とする。						
評価方法	成績評価	マレーシア研修でグループワークへの取り組み姿勢、事前学習での意欲度、事後学習での課題の発表等の総合成績で評価する。					
	評価割合	試験	0 %	課題	50 %	他	50 %
教科書	マレーシア・ガイドブック (マレーシア政府観光局発行)			副教材および 参考文献		プリント(英会話他)	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	事前学習①	オリエンテーション・基本英会話(学校)
第2回	事前学習②	マレーシアの歴史と文化・基本英会話(学校)
第3回	事前学習③	グループワーク 事前準備・基本英会話(学校)
第4回	マレーシア研修	グループワーク(inクアラ Lumpur)
第5回	マレーシア研修	グループワーク
第6回	マレーシア研修	グループワーク
第7回	マレーシア研修	グループワーク
第8回	マレーシア研修	カレッジ交流 ※UTAR大学
第9回	マレーシア研修	カレッジ交流
第10回	マレーシア研修	カレッジ交流
第11回	マレーシア研修	グループワーク
第12回	マレーシア研修	グループワーク
第13回	マレーシア研修	グループワーク
第14回	マレーシア研修	グループワーク
第15回	マレーシア研修	グループワーク
第16回	マレーシア研修	グループワーク

	講 義 計 画	実 施 細 目
第17回	マレーシア研修	グループワーク
第18回	マレーシア研修	グループワーク
第19回	マレーシア研修	グループワーク
第20回	マレーシア研修	グループワーク
第21回	マレーシア研修	カンポン・ホームステイ ※マラッカ(2泊3日)
第22回	マレーシア研修	カンポン・ホームステイ
第23回	マレーシア研修	カンポン・ホームステイ
第24回	マレーシア研修	カンポン・ホームステイ
第25回	マレーシア研修	カンポン・ホームステイ
第26回	マレーシア研修	カンポン・ホームステイ
第27回	マレーシア研修	カンポン・ホームステイ
第28回	マレーシア研修	カンポン・ホームステイ
第29回	マレーシア研修	カンポン・ホームステイ 閉村式
第30回	事後学習①	グループワーク まとめ(学校)
第31回	事後学習②	グループワーク まとめ(学校)
第32回	事後学習③	グループワーク 発表会(学校)



# 授 業 計 画

No.1

授業科目	福祉住環境		担当教員	木村 裕安	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は、二級建築士試験学科 I 計画の建築計画各論の分野にあたる。わが国の少子高齢化社会において近年益々その重要性が注目されており、建築の分野においても今後活躍の場が益々期待されている分野である。特に高齢者・障害者の介護に関する基本的な知識と技術を重点的に学ぶ。その上で福祉住環境コーディネーター検定試験3級合格レベルを到達目標とする。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	20 %	他	10 %
教科書	福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト(東京商工会議所)			副教材および参考文献		福祉住環境コーディネーター3級検定試験過去問題集&実力テスト	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	暮らしやすい生活環境を目指して①	シラバスの説明と検定試験に関して、少子高齢化社会の現状と課題
第2回	暮らしやすい生活環境を目指して②	【1】人口減少社会から見た社会構造の変化
第3回	暮らしやすい生活環境を目指して③	【2】高齢者への施策と現状と課題
第4回	暮らしやすい生活環境を目指して④	日本の住環境の問題点と福祉住環境コーディネーターの役割
第5回	健康と自立を目指して①	老化のとらえ方、老年学、WAIS尺度得点、日常生活動作(ADL)
第6回	健康と自立を目指して②	高齢者の健康に必要な食事と運動
第7回	健康と自立を目指して③	高齢者の健康に欠かせないヘルスプロモーション
第8回	バリアフリーとユニバーサルデザイン①	バリアフリーとユニバーサルデザインの考え方、我が国のユニバーサルデザイン
第9回	バリアフリーとユニバーサルデザイン②	生活の問題点と用具、生活を支えるさまざまな用具①(共用品・福祉用具)
第10回	バリアフリーとユニバーサルデザイン③	生活を支えるさまざまな用具②(福祉用具)
第11回	バリアフリーとユニバーサルデザイン④	生活を支えるさまざまな用具③(コミュニケーション支援用具・自助具)
第12回	安全・安心・快適な住まい①	住まいの整備の為の基本技術(段差・手すり家具・収納)
第13回	安全・安心・快適な住まい②	住まいの整備の為の基本技術(色彩・照明・屋外移動・屋内移動)
第14回	安全・安心・快適な住まい③	住まいの整備の為の基本技術(水回り・調理・起居就寝)
第15回	前期期末試験対策	期末試験の範囲確認、期末試験の過去問題演習
第16回	期末試験	期末試験の実施



# 授 業 計 画

No.1

授業科目	建築設備		担当教員	内田 浩	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この授業では、これまで皆さんが当たり前のように使ってきた建物内の各種設備を、設計する側の視点で見つめなおし、人が快適、安全にその建物を使用するための重要な要素となる建築設備設計の基礎を学びます。後続の詳細講義となる建築設備Ⅱに先行し、全体の建築設備イメージと各設備の基本機能をつかむことができるよう学習します。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	20 %	他	10 %
教科書	図説 やさしい建築設備			副教材および 参考文献		オリジナルプリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス: 建築と設備、その歴史	範囲の広い建築設備学習のアプローチ
第2回	給排水・衛生設備1	給排水・衛生設備の概要
第3回	給排水・衛生設備2	給水設備について
第4回	給排水・衛生設備3	給湯の科学、給湯方式と給湯量
第5回	給排水・衛生設備4	給湯設備まとめ、排水の分類と系統
第6回	給排水・衛生設備5	通気と排水設備
第7回	給排水・衛生設備6	排水設備のまとめ、ガス設備、衛生器具設備
第8回	空気調和・換気設備1	空気調和の目的と設備の概要
第9回	空気調和・換気設備2	空気調和の科学
第10回	空気調和・換気設備3	空気調和と熱源
第11回	空気調和・換気設備4	換気の目的と換気システム
第12回	電気設備1	電気についての復讐と電気設備の概要
第13回	電気設備2	照明設備、通信設備
第14回	防災設備、省エネルギー	防災設備の役割、省エネルギーの考え方
第15回	まとめと期末試験の準備	建築設備全体をもう一度復習
第16回	期末試験	期末試験の実施



# 授 業 計 画

No.1

授業科目	建築法規 I		担当教員	湯浅 誠	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は2級建築士学科試験の1科目として、また建築物を計画する上で建築法規の知識が必要ということを理解する。まずは法令集の引き方や条文に慣れ、建築法規に出てくる基本的な項目がどのような内容なのか概要を理解する。特に建築基準法の単体規定の部分を学習する。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	20 %	他	10 %
教科書	建築関係法令集2023 図説やさしい建築法規			副教材および 参考文献		プリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス・法令集の作成①	学習内容、二級建築士概要(法規の構成)、法令集アンダーラインの引き方
第2回	法令集の作成②	インデックスの貼り方
第3回	法令集の使い方、法令の構成	基準法の分類、法令の構成、法令用語の読み方
第4回	基本用語の理解	建築物、特殊建築物、居室、建築、敷地、延焼等
第5回	面積の算定①	敷地面積の算定、一部例外
第6回	面積の算定②	建築面積の算定
第7回	面積の算定③	床面積、延べ面積の算定
第8回	高さの算定、階数	地盤面、建築物の高さ、階数
第9回	各種手続き①	確認申請を必要とする建築物等
第10回	各種手続き②	届出、検査等、手続きのフローチャート
第11回	一般構造規定①	居室の採光に関する基準、有効採光面積
第12回	一般構造規定②	居室の換気、シックハウス
第13回	一般構造規定③	居室の天井高、居室の床高、地下の居室
第14回	一般構造規定④	階段の寸法、踊り場、手摺、傾斜路等
第15回	総復習	試験対策(第1～14回の振り返り)
第16回	期末試験	期末試験の実施



# 授 業 計 画

No.1

授業科目	構造力学 I		担当教員	亀田無限	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は建築構造力学の基礎である力学の考え方とその計算方法について、正しい知識を習得することを目的とする。建築物を構成する柱や梁に作用する荷重によって、建物の支点到働く「反力」を理解し、反力計算が解けるようになることを目標とする。主に「力のつりあい条件式」「力のモーメント」「反力」の考え方を理解する。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	10 %	他	20 %
教科書	図説やさしい構造力学 学芸出版社			副教材および参考文献		配布プリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス、オリエンテーション	構造力学について
第2回	力について	力とは、モーメントとは
第3回	力の合成と分解(1)	力の合成と分解
第4回	力の合成と分解(2)	分布荷重とバリニオンの定理
第5回	力の合成と分解(3)	復習
第6回	力のつり合い	力のつりあい条件式、偶力のモーメント
第7回	支点、節点、力のつりあい方程式	三種類の支点、反力数
第8回	反力計算(1)	片持ち梁の反力を求める
第9回	反力計算(2)	等分布荷重が作用する片持ち梁の反力を求める
第10回	反力計算(3)	単純梁の反力を求める
第11回	反力計算(4)	等分布荷重が作用する単純梁の反力を求める
第12回	反力計算(5)	いろいろな荷重が作用する梁の反力を求める-1
第13回	反力計算(6)	いろいろな荷重が作用する梁の反力を求める-2
第14回	期末試験対策(1)	力の合成、分解、バリニオンの定理の復習
第15回	期末試験対策(2)	反力計算の復習
第16回	期末試験	期末試験の実施



# 授 業 計 画

No.1

授業科目	建築一般構造 I		担当教員	川名 和雄	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は、木造住宅の標準的な在来軸組構法を取り上げ、2階建て木造住宅軸組模型を S=1/40で作製する。柱や梁、筋交い等の各部材を立体的に確認することで、木構造をリアルな形で理解する。また、平面図、立面図、基礎伏図、床伏図、軸組図、小屋伏図を通して、部材名と同時に各図面の読み方を理解する。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	30 %	課題	60 %	他	10 %
教科書	オリジナルプリント			副教材および参考文献	木造軸組工法の基本		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス・オリエンテーション	学習内容、日程、評価、木造建築物の基本
第2回	軸組模型製作 - 1	基礎の作成
第3回	軸組模型製作 - 2	1階床組み-1 土台、床束の切出し
第4回	軸組模型製作 - 3	1階床組み-2 土台、床束の組立
第5回	軸組模型製作 - 4	1階床組み-3 火打ち土台
第6回	軸組模型製作 - 5	南側外壁軸組み-1 柱、横架材の切出し、組立
第7回	軸組模型製作 - 6	南側外壁軸組み-2 筋交い、まぐさ、窓台の切出し、取付
第8回	軸組模型製作 - 7	南側外壁軸組み-3 筋交い、まぐさ、窓台の切出し、取付
第9回	軸組模型製作 - 8	東側外壁軸組み-4 柱、横架材の切出し、取付
第10回	軸組模型製作 - 9	東側外壁軸組み-5 筋交い、まぐさ、窓台の切出し、取付
第11回	軸組模型製作 - 10	西側外壁軸組み-6 柱、横架材1、筋交い等の切出し、取付
第12回	軸組模型製作 - 11	北側外壁軸組み-7 柱、横架材1、筋交い等の切出し、取付
第13回	軸組模型製作 - 12	2階床組み-8 頭つなぎ、火打ち梁の取付
第14回	軸組模型製作 - 13	小屋組み-9 火打ち梁、小屋束、母屋、垂木の切出し
第15回	軸組模型製作 - 14	小屋組み-10 火打ち梁、小屋束、母屋、垂木の取付
第16回	期末試験	期末試験の実施



# 授 業 計 画

No.1

授業科目	建築施工		担当教員	加藤 貴久	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は、2級建築士・2級建築施工管理技術検定合格を目標とし、そのための基礎知識の習得をねらいとする。建築施工 I では、工事契約から着工までの準備及び、仮設工事・土工事・地業工事までの主な現場作業の流れ・工法等を学習する。また夏休み期間中に現地調査を目的に工事現場の見学レポートの課題を課す。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	75 %	課題	25 %	他	0 %
教科書	図説 やさしい建築施工			副教材および参考文献		2級建築士過去問題ファイル スライド	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	建築施工とは	授業概要説明 建築に携わる人々 建築工事の流れ
第2回	工事契約 設計図書	現場代理人 工事請負契約 設計図書の種類と優先順位
第3回	積算	工事費の構成 積算用語
第4回	施工計画	現地調査 工程計画
第5回	施工計画 施工管理	工程表 品質管理
第6回	施工管理	工程管理 安全管理 原価管理
第7回	施工管理	材料管理 環境管理 各種届出
第8回	地盤調査	地盤調査の目的 地盤調査の種類
第9回	復習コマ	地盤調査までのおさらい
第10回	測量	直接仮設工事の測量 各種測量
第11回	仮設工事	仮設工事の種類 各種仮設
第12回	仮設工事	足場の種類 作業床 災害防止措置
第13回	土工事	根切り工事と山留め工事の各種工法
第14回	土工事 基礎地業工事	排水工法 地業工事 既成杭の各種工法
第15回	基礎事業工事	既製杭と場所打ち杭の各種工法 地盤改良
第16回	期末試験	期末試験の実施



# 授 業 計 画

No.1

授業科目	インテリア概論		担当教員	宍倉 良太	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	<p>この科目では、建築を学ぶ学生にとってインテリアデザインの必要な基礎知識を学習する。設計の最終段階に考えられると思われがちな内部空間の計画は、実は建築設計の初期段階から始まります。その建物を利用する人々が、仕事や日々の生活、趣味の時間などを、安全かつ快適に過ごし、その結果いかに満足し得るかは、インテリアデザインの良し悪しに大きく左右され、建築全体の良否にも関わってきます。主にその仕事内容・エレメントなどについて学習していきます。</p>						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	20 %	他	10 %
教科書	超図解で全部わかる インテリアデザイン入門			副教材および 参考文献		オリジナルプリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス、インテリアデザインの仕事①	インテリアデザイン学習のアプローチ、インテリアデザインの対象
第2回	インテリアデザインの仕事②	かかわる業種・職種、資格、具体的な業務
第3回	インテリアの構成要素①	家具(椅子・テーブル・収納・ベッド)・家具スケッチ
第4回	インテリアの構成要素②	家具金物・什器・住宅設備、ウィンドトリートメント
第5回	インテリアの構成要素③	躯体の構造・床下地・壁下地・天井下地
第6回	インテリアの構成要素④	建具の種類・窓の種類
第7回	インテリアの歴史①	日本のインテリア様式
第8回	インテリアの歴史②	西洋のインテリア様式
第9回	インテリアの色彩計画	色彩の基本原理
第10回	インテリアの照明計画	さまざまな照明の種類、性質・性能
第11回	寸法とモジュール①	動作と行動の心理的要因(人体寸法・動作寸法)
第12回	寸法とモジュール②	動作と行動の心理的要因(動作行動の心理的要因)
第13回	インテリアのイメージスタイル	各空間のデザイン・スケッチ
第14回	インテリアのイメージスタイル②	各空間のデザイン・スケッチ
第15回	テスト前復習	ポイントの復習
第16回	期末試験	期末試験の実施



# 授 業 計 画

No.1

授業科目	建築設計製図		担当教員	宍倉 良太	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	2 コマ/週	授業形態	演習	単位数	2

授業概要	この科目は、建物を造る上で必要となる建築図面の描き方の基本を学習する。製図用具の取り扱い・線の引き方・製図文字の練習・レイアウトの仕方から学ぶ。2級建築士の実技試験を見据えた、平面記号から配置平面図・断面図等、1通りの基本図面の理解を目標とする。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	90 %	他	10 %
教科書	2級建築士試験設計製図テキスト			副教材および参考文献		配布プリント、スライド	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス、課題1 線と文字の練習①	製図道具の使い方・課題について、線の練習(エスキス用紙)
第2回	課題1 線と文字の練習②	図面レイアウトと線種の区別、等間隔線の作図
第3回	課題1 線と文字の練習③	製図文字の書き方、円の描き方、図面修正
第4回	課題2 平面表示記号の練習①	図面レイアウト、下書き線、建具の種類、壁の線
第5回	課題2 平面表示記号の練習②	壁の線、建具記号、階段
第6回	課題2 平面表示記号の練習③	文字、図面修正
第7回	課題3 平面図の基本形状①	尺モジュールについて、階段・トイレの表記、形状、作図
第8回	課題3 平面図の基本形状②	浴室・洗面脱衣室の形状、作図
第9回	課題3 平面図の基本形状③	和室・LDKの形状、作図
第10回	課題3 平面図の基本形状④	駐車場の形状(2台駐車)、作図
第11回	課題4 配置図兼1,2階平面図①	敷地の形状、壁の中心線
第12回	課題4 配置図兼1,2階平面図②	壁線、柱線(下書き)、柱線(本書き)
第13回	課題4 配置図兼1,2階平面図③	開口部スルーライン、壁線(本書き)
第14回	課題4 配置図兼1,2階平面図④	開口部(建具)の作図、玄関廻り、階段、和室の量
第15回	課題4 配置図兼1,2階平面図⑤	家具、設備機器
第16回	課題4 配置図兼1,2階平面図⑥	床の目地、外構



	講 義 計 画	実 施 細 目
第17回	課題4配置図兼1,2階平面図⑦	寸法・筋交い・植栽文字・図面修正
第18回	課題4配置図兼1,3階平面図⑧	各部屋文字記載
第19回	課題5南・東側立面図①	軒高・屋根勾配について、開口部下書き
第20回	課題5南・東側立面図②	開口部線、寸法、図面修正
第21回	課題6 妻・桁方向断面図①	壁の中心線、高さの基準線、屋根の基準線
第22回	課題6 妻・桁方向断面図②	壁・天井・開口部・屋根の下書き(妻側)
第23回	課題6 妻・桁方向断面図③	壁・天井・開口部・屋根の下書き(桁側)両側本書き
第24回	課題7 矩計図①	各部の名称、壁の中心線、高さの基準線
第25回	課題7 矩計図②	屋根勾配、柱、床束、小屋束、基礎廻り、軒の出、構造部材
第26回	課題7 矩計図③	各部位の下書き(床、屋根、盛土、窓廻り、外壁等)
第27回	課題7 矩計図④	各部位の仕上げ本書き(サッシ廻り)
第28回	課題7 矩計図⑤	各部位の仕上げ本書き(床下地、天井下地等)
第29回	課題7 矩計図⑥	軒先・庇・外壁廻り本書き、基礎、ハッチング
第30回	課題7 矩計図⑦	断熱材、仕上げ材引き出し線
第31回	課題7 矩計図⑧	寸法、文字、図面修正
第32回	課題8 矩計図⑨	各寸法セルフチェック後提出



# 授 業 計 画

No.1

授業科目	CAD演習		担当教員	生沼 秀樹	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	2 コマ/週	授業形態	演習	単位数	2

授業概要	<p>この科目では、世界シェアNo.1CADソフトであるAutoCADバージョン2018の2D(二次元)製図技術を学びます。                  授業では建築CAD検定試験3級の課題に取り組み、試験に合格することで基本操作の習得を目指します。                  前半は、先生と一緒に作図計画・作図に関する基本操作をじっくり学び、後半は各自で計画し描けるようにしつつ、効率的に作図できるようにする。</p>						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	40 %	課題	40 %	他	20 %
教科書	建築CAD検定試験 公式ガイドブック2023			副教材および参考文献		建築CAD検定試験 過去問題プリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス、AutoCADの基本操作(1)	オリエンテーション 建築CAD検定試験概要説明 画面説明
第2回	AutoCADの基本操作(2)	オブジェクトの作成・編集・ファイル保存等
第3回	AutoCADの基本操作(3)	基本操作(寸法・文字) 練習問題 ドア作成 提出
第4回	階段平面図(23A-0) 計画、設定	課題説明、手順の確認、計画 画面、画層設定
第5回	階段平面図(23A-0)作図	図枠、文字、基点、壁、段板、手すり
第6回	階段平面図(23A-0)作図	トリム等まとめ提出 採点
第7回	柱・壁・間仕切壁(23C-0) 計画、設定	課題説明、手順の確認、計画 画面、画層設定
第8回	柱・壁・間仕切壁(23C-0)	図枠、文字、基点、通り芯、柱、壁
第9回	柱・壁・間仕切壁(23C-0)	間仕切壁、トリム等まとめ提出 採点
第10回	通り芯・寸法・通り芯記号(233-B3)計画、設定	課題説明、手順の確認、計画 画面、画層設定
第11回	通り芯・寸法・通り芯記号(233-B3)作図	図枠、文字、基点、通り芯
第12回	通り芯・寸法・通り芯記号(233-B3)作図	記号、寸法、トリム等まとめ提出 採点
第13回	壁と窓(233-D3)計画、設定	課題説明、手順の確認、計画 画面、画層設定
第14回	壁と窓(233-D3)作図	図枠、文字、基点、通り芯、壁
第15回	壁と窓(233-D3)作図	窓台、サッシ、ガラス、トリム等まとめ提出 採点
第16回	階段平面図(233-A1) 計画、設定、作図	テンプレート作成 課題解説



	講義計画	実施細目
第17回	階段平面図(233-A1) 作図	各自作図
第18回	通り芯・寸法・通り芯記号(233-B1)作図	課題解説、テンプレート作成
第19回	通り芯・寸法・通り芯記号(233-B1)作図	各自作図
第20回	柱・壁・間仕切壁(233-C1)作図	課題解説、テンプレート作成
第21回	柱・壁・間仕切壁(233-C1)作図	各自作図
第22回	壁と窓(233-D1)作図	課題解説、テンプレート作成
第23回	壁と窓(233-D1)作図	各自作図
第24回	階段平面図(233-A2) 作図	円形配列複写の習得
第25回	通り芯・寸法・通り芯記号(233-B2)作図	直列寸法記入の習得
第26回	柱・壁・間仕切壁(233-C2)作図	鏡像、円弧等の習得
第27回	壁と窓(233-D2)作図	複写(配列)の習得
第28回	233-A3、233-C3作図	時間を意識して2課題実施
第29回	建築CAD検定試験3級対策	階段平面図、通り芯・寸法・通り芯記号 各1課題
第30回	建築CAD検定試験3級対策	柱・壁・間仕切壁、壁と窓 各1課題
第31回	建築CAD検定試験3級対策	階段平面図、通り芯・寸法・通り芯記号 各1課題
第32回	建築CAD検定試験3級対策	柱・壁・間仕切壁、壁と窓 各1課題



# 授 業 計 画

No.1

授業科目	コンピューター演習		担当教員	宍倉 良太	クラス	建築設計科1年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	演習	単位数	1

授業概要	この科目は、業種を問わず業務に欠かせない、マイクロソフト社のOfficeシリーズの表計算ソフトの基本操作・数式と計算・グラフ・オブジェクト・データベース機能・入出力を習得する。 学習到達目標として、Excel表計算処理技能認定試験3級を受験し、合格することを目指す。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	50 %	課題	30 %	他	20 %
教科書	なし			副教材および参考文献		Excel表計算処理技能認定試験問題集 配布資料、模擬問題	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	オリエンテーション・基本操作	オリエンテーション・資格取得について、起動、画面構成・役割、表の作成①
第2回	基本操作	表の作成②(関数、列幅調整、罫線、条件付書式等)
第3回	練習問題1	練習問題1の問題1、2→解説(表の作成、集計)、確認
第4回	練習問題1	練習問題1の問題3、4、5→解説(グラフの作成、印刷設定)、確認
第5回	練習問題2	練習問題2→解説(ワードアート、構成比、折れ線グラフ)、確認
第6回	練習問題3	練習問題3→解説(テキストボックス、RANK.EQ)、確認
第7回	模擬問題1	模擬問題1→採点、解説(比率、円グラフ)、確認
第8回	模擬問題2	模擬問題2→採点、解説(ROUNDUP、面グラフ)、確認
第9回	模擬問題3	模擬問題3→採点、解説(割合、グラフの編集)、確認
第10回	模擬問題4	模擬問題4→採点、解説(平行四辺形図計の編集、ROUNDDOWN)、確認
第11回	模擬問題5	模擬問題5→採点、解説(IF、積み上げ横棒グラフ)、確認
第12回	模擬問題6	模擬問題6→採点、解説(塗りつぶしレーダーグラフ)、確認
第13回	検定対策授業	検定対策問題の実施
第14回	模擬問題7	模擬問題7→採点、関数等の最終確認
第15回	練習,模擬問題確認	課題提出状況の確認、模擬問題7提出
第16回	期末試験	期末試験の実施